

# 一般県道高松内灘線

たかまつうちなだ

## 内灘大橋橋梁整備事業

受賞機関 石川県津幡土木事務所

### はじめに

内灘町は県都金沢市の北西に隣接し、国内有数の内灘砂丘に展開している「砂丘の町」である。

昭和30年代後半から県営住宅の建設や土地区画整理事業により、まちづくりが行われ、金沢の近郊都市として発展してきた。

しかし、昭和43年常襲浸水対策として建設された河北潟放水路により町域が南北に分断され、町役場や金沢医科大学病院等市街地として発展してきた南部地区と北部地区の総合公園や福祉センター等を連絡するには、一旦、平地まで降りた後、高低差約30mの砂丘地上まで急勾配で急カーブの道路を上ることとなり、北部地区発展の阻害となっており、南北地域を直結する内灘大橋の早期建設が町民の念願となっていた。

このため、平成4年度に事業着手、平成8年度より橋梁工事を進め、平成13年9月に完成した。

### 事業概要

路線名：一般県道 高松内灘線

道路規格：第3種 第2級

橋梁名：内灘大橋

橋長：344m

構造形式：3径間連続PC斜張橋

### 事業の特徴

内灘大橋の設計においては、経済性はもとより、日本海からの季節風、塩害による影響、耐震、液状化対策など様々な検討が行われた。

主桁下面よりの高さが54mの2本のA型主塔から準ハープ状にのびた片側9本の斜材が、スレンダーな主桁を吊り、まるで河北潟に飛来する白鳥や日本海に浮かぶヨットのように見え、雄大で優美な姿をしている。

また、日本海側唯一の多色カラー照明によるライトアップを実施し、金沢市街地や河北潟を挟んで国



内灘大橋全景



河北潟放水路に架かるPC斜張橋

道8号からもその姿が臨め金沢都市圏の新たな夜間景観による地域文化の創出にも配慮した。

なお、オペレーションパターンは春(萌黄色)・夏(群青色)・秋(黄金色)・冬(篝火色)の季節の移り変わりをメインとしている。

内灘大橋の完成により、能登と金沢を結ぶ新たなバスルートが確立され、金沢医科大学病院などの医療施設の利便性が向上するとともに、内灘町南北地区が直結され、安全で快適な通行が可能となった。また、内灘大橋と並行して整備が進められてきた、内灘北部土地区画整理事業(白帆台ニュータウン)の宅地分譲も開始され、南北地域が一体となった豊かなまちづくりが期待されている。